

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第3区分
 【発行日】平成18年3月23日(2006.3.23)

【公開番号】特開2000-4261(P2000-4261A)
 【公開日】平成12年1月7日(2000.1.7)
 【出願番号】特願平11-98845
 【国際特許分類】

H 0 4 L 25/49 (2006.01)

H 0 3 M 5/20 (2006.01)

H 0 4 B 10/00 (2006.01)

【F I】

H 0 4 L 25/49 Z

H 0 3 M 5/20

H 0 4 B 9/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成18年2月2日(2006.2.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0069

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0069】

多値割り当て部141は、時間 $t_2 \sim t_3$ には、シンボルCOM41を検出する。この時間区間では、上述と同じ要領で、振幅値が割り当てられ、多値符号列6が生成される。その結果、時間 $t_2 \sim t_3$ には、「Y」および「X」の交番を含む多値符号列6が生成される。ただし、前述と同様に、COM41への変化を表現するため、時間 t_2 前後で、同符号レベル「Y」が2回繰り返される。この繰り返しにより、時間 $t_1 \sim t_2$ の交番パターンと、時間 $t_2 \sim t_3$ の交番パターンの位相が変化して、COM42からCOM41への変化が表現される。

多値割り当て部141は、時間 t_3 の直後に、DATA43(「1」または「0」)を検出する。このとき、第1の保持部15には、前回の振幅値として「X」および「Y」のいずれかが保持される。この場合、多値割り当て部141は、検出したDATA43に、振幅値「W」または「Z」を割り当てる。以降、DATA43が入力される時間 $t_3 \sim t_4$ には、「W」および「Z」の羅列で表現される多値符号列6が生成される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0097

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0097】

なお、図4(c)の例では、 t_5 の直前には、第2の保持部23には、前回の振幅値として「Y」または「Z」が保持される。しかし、DATA72は、時間 $t_4 \sim t_5$ にかけて「0」のみからなる場合も想定できる。この場合、時間 t_2 に、前回の振幅値として「X」が保持される場合もある。この場合、復号部24は、時間 t_2 の直後に振幅値「Z」が検出する。前回の振幅値が「X」で、今回のもの「Z」という関係は、図5の復号規則の1.に該当する。したがって、復号部24は、復号シンボルとしてCOM71を再生する。